

はるかな尾瀬

— 目次 —

- 02 特集
尾瀬を「みんなで守る」～尾瀬ボランティアによる保護活動～
- 04 リレーエッセイ
国立公園の地方移管論議に思う～協働管理型国立公園をめざして
- 06 現地情報
- 08 平成24年シーズンの尾瀬についてのお知らせ
- 10 認定ガイドがススめる とっておきの尾瀬
 - ①感動の確率は『ほぼ100%!』
 - ②自然のスケールと人間の小ささ
 - ③幅広い世代の方に好きになってもらえるような尾瀬であってほしい
 - ④感謝の言葉の大切さをいつまでも持ち続けて欲しい
- 12 尾瀬から学ぶスローライフ
淡彩画と尾瀬
- 13 エッセイ尾瀬好日
 - ①夏の思い出
 - ②私のお気に入り、それは横田代
 - ③尾瀬回想とボランティア活動
- 16 尾瀬ボランティア情報
- 17 TOPIX
- 18 尾瀬保護財団からのお知らせ



2012.3 vol.18
(財)尾瀬保護財団



春先に見られるアカシボ (写真は研究見本園から燧ヶ岳を望む)

特集

尾瀬を「みんなで守る」

〜尾瀬ボランティアによる保護活動〜

平成18年に策定された「尾瀬ビジョン」の基本理念「みんなの尾瀬を みんなで守り みんなで楽しむ」。これは、美しい景観とともに貴重な生態系を有する「自然の宝庫」尾瀬を、地域をはじめ尾瀬を愛する人みんなで保護しながら、豊かな自然体験を享受できるようにしていくというものです。

今回は、尾瀬を「みんなで守る」活動の一つとして、尾瀬保護財団の尾瀬ボランティアを紹介します。

尾瀬ボランティアとは

尾瀬ボランティアは、尾瀬保護財団が支援するボランティア団体で、平成8年6月1日に設立されました。

尾瀬ボランティアは、尾瀬の自然保護活動や適正利用を推進するとともに、尾瀬の自然に対する理解を深めるための普及啓発や環境教育など様々な活動に取り組んでいます。平成23年度の活動参加者は、延べ617名でした。

入山口啓発活動

尾瀬の各登山口で、登山者に対して、尾瀬のルールやマナーの協力を呼びかけたり、尾瀬情報の提供などを行っています。



登山者へのルールやマナーの呼びかけ



尾瀬情報の提供や登山者からの相談に乗る

尾瀬ボランティアQ&A

●尾瀬ボランティアになるにはどうしたらいいですか

まずは応募用紙を記入の上、財団事務局へお送りください。応募用紙が届き次第、財団から通信研修資料をお送りします。資料を読んでレポートを提出していただきます。その後、毎年6月に行われる現地研修を修了すると、尾瀬ボランティアとして正式に登録となります。

●尾瀬ボランティアの応募資格はありますか

尾瀬が好きな18歳以上(高校生は除く)の方で、尾瀬において野外活動を行うだけの健康と体力を有する人です。

●現在、尾瀬ボランティアはどれくらいいますか

平成24年3月1日現在で、340名(男性274名、女性66名)です。北は岩手県から南は大分県の方まで登録しています。

●尾瀬ボランティアの年齢は

平成24年3月1日現在で、平均年齢は65・1歳です。なお、最高齢の方は82歳で、最年少の方は24歳です。

●ボランティア活動中の事故に対する補償はありますか

尾瀬ボランティアは、自身のケガや他の人に損害を与えてしまった時の補償に備え、ボランティア保険に加入しています。

登山道整備、植生復元活動

至仏山東面登山道の踏み込み防止用の柵立て、ロープ張り作業などや荒廃した登山道の植生復元作業などを行っています。



立入防止柵の設置



植生復元作業

環境美化活動

尾瀬は「ごみ持ち帰り運動」発祥の地であることから、登山道や休憩場所などを定期的に巡回して、ごみ拾いなどの清掃活動を行っています。



ビジターセンター支援活動

ビジターセンターの窓口対応や館内展示の案内、館内や公衆トイレの清掃、自然観察会やスライドショーの補助など多岐にわたります。



自然観察会

自然解説活動

休憩場所などで尾瀬の自然や歴史などを解説するお話ボランティアや、尾瀬の環境を守ることを大変さや尾瀬の自然の貴重さ、すばらしさを理解してもらうために環境保全施設の見学ツアー（環境学習ミニガイドツアー）を実施しています。



山ノ鼻地区の環境学習ミニガイドツアー



尾瀬沼地区のお話ボランティア

地域活動

尾瀬ボランティアがそれぞれの地域で、尾瀬の魅力や自然環境の保護についての啓発活動などを行っています。

尾瀬保護財団では、
今後も尾瀬ボランティアと
協力しながら、
尾瀬の保護活動に
取り組んでいきます。

尾瀬ボランティアに関する
お問い合わせは、
尾瀬保護財団へ
お問い合わせください。

TEL.027-220-4431

- 現地までの交通費などは誰が負担するのですか
ボランティア活動に伴って生ずる宿泊費、食料費、交通費などの経費は、尾瀬ボランティアの自己負担となります。
- 尾瀬ボランティアの活動場所はどこですか
尾瀬全域ですが、尾瀬ボランティアがそれぞれの地域で、尾瀬の魅力を伝えるために行っている活動を含めると、活動範囲は日本全域といつてもいいでしょう。
- いつ活動したらよいのですか
活動計画で活動日が設定されています。予め事務局へお申し込みの上活動してください。なお、活動日以外に自主的にボランティア活動をすることも可能です。

なお、保険料は財団で負担しています。

リレーエッセイ

「国立公園の地方移管論議に思う」
〜協働管理型国立公園をめざして〜

吉田 正人

二〇一〇年一二月の閣議決定「アクションプラン」出先機関の原則廃止に向けて〜」に基づき、地方環境事務所の権限と予算、人員を地方自治体に移管すべきだという議論が進められている。明治からの中央集権の結果、肥大化した国の出先機関を整理し、地方に移管することによって、不必要な公共事業を削減することが本来の趣旨である。しかし関西広域連合、九州知事会等から要望が出されている地方環境事務所の移管には、国立公園の地方移管が含まれている。日本生態学会自然保護専門委員会は、二〇一一年一二月、これに反対する意見書を内閣総理大臣、総務大臣、環境大臣等に提出した。

尾瀬国立公園は、日光国立公園から独立した二九番目の新しい国立公園だが、国立公園としての歴史は長い。私は、国立公園行政と

文化財行政が一本化され、尾瀬沼も尾瀬ヶ原も環境庁が管理することになった一九七五年に、サブレンジャーとして尾瀬沼、見晴、山ノ鼻を移動しながら自然解説や利用指導に従事した。当時はわずか二名のレンジャーがいなかったため、学生サブレンジャーの活動は大きな役割を果たしていた。



▲尾瀬国立公園

2007年8月30日に日光国立公園から分離独立した29番目の国立公園

そもそも、我が国の国立公園は、米国の国立公園と違い、土地所有にかかわりなく指定する地域制公園であり、国際自然保護連合

(IUCN) の保護地域管理カテゴリーで国立公園(カテゴリーII)に分類されているのは七公園に過ぎない。ちなみに日光国立公園はカテゴリーIIとなつているが、尾瀬国立公園は新しい国立公園のため未分類である。

このように我が国の国立公園は、世界標準とは異なるものの、国、地方自治体、尾瀬保護財団のような団体、土地所有者、山小屋などが協力しながら運営して来た独自の歴史を持ち、協働管理型国立公園という呼称も生まれている。二〇一〇年に採択された生物



▲知床国立公園

IUCN保護地域管理カテゴリーVに分類される知床国立公園

多様な条約愛知目標でも、「平等で効果的な保護地域管理」が求められ、多様な管理形態が認められるようになってきているのである。



▲小笠原国立公園
2011年には小笠原諸島が世界自然遺産に登録された

高速道路や国道のように、国が中心となり、独自財源を持って進めてきた事業を地方移管せよという議論はわかるが、もともと国が地方自治体等と協働型管理を行ってきた日本の国立公園を地方移管したところで、何の得があるのだろうか？ 入園料のような独自財源がある訳ではなく、スタッフの数は少ない。

多くの関係者の意見を取りまとめて協働管理を行うという負担が、広域連合にふりかかってくるだけである。もし、広域連合の事務にしたほうが、許認可がスムーズに進むという理由で、地方移管を求めているなら大きな勘違いだ。これまで、自然保護団体が国立公園の自然破壊になるとして反対運動を繰り広げてきた事業のほとんどが、ダム、道路等の公共事業であり、許認可の対象外である。もし、これらのタガを緩めるようなことがあれば、自然保護団体との戦いを再燃させることになり、生物多様性条約の議長国として世界から批判を浴びることになる。



▲屋久島国立公園
2012年3月16日に霧島屋久国立公園から分離独立した30番目の最も新しい国立公園
屋久島最大の縄文杉は推定樹齢2000年以上

また、自然公園法上も、環境大臣が指定し、地方自治体が管理するのであれば、国立公園との区別はなくなってしまう。地方自治体がそれほど国立公園の地方移管を望むならば、国が自ら管理する国立公園は数カ所に絞って、地方移管する国立公園は国立公園にするという議論にもなりかねない。国立公園の地方移管は、結局のところ角を矯めて牛を殺すことになりはしないだろうか。むしろ、我が国がこれまでめざしてきた協働管理型国立公園を進めることで、地域の意見を反映させた国立公園管理が実現可能であると信ずる。

筆者紹介

吉田 正人（よしだ まさひと）

筑波大学大学院准教授、日本生態学会自然保護専門委員

専門は保全生態学

著書は「自然保護―その生態学と社会学」など

前号の村上哲生氏（名古屋女子大学家政学部教授）よりリレーしました。

原をわたる風だより 山の鼻ビジターセンターより

おしじよだより 尾瀬沼ビジターセンターより

厳冬期の尾瀬

厳冬期の尾瀬は人を寄せ付けない
厳しさがあり、最低気温はマイナス
25度程度になります。積雪は、標高
の高いところやふきだまりでは15m
前後にもなります。

雪は一樣に積もりませんが北西風
が強く、川や窪地は雪に埋まります。
建物の屋根の積雪は、北側・西側が
比較的少なく、南側・東側に多くつ
きます。時には軒先に1メートル以
上雪庇が張り出し、建物を完全に覆
ってしまふこともあります。このよ
うに偏って雪が積もるため、山小屋
やビジターセンターでは、冬期に何
回か除雪をしないと建物が壊れてし
まいます。

みなさんがこの機関誌をお読みに
なっている頃には、山の鼻ビジター
センターでも、除雪作業が終わって
いることでしょう。



▲山の鼻ビジターセンター（正面）



▲山ノ鼻地区の様子



▲山の鼻ビジターセンター（裏側）

尾瀬ヶ原の様子

右下の写真は、上空から見た尾瀬
ヶ原の様子です。一面が白銀の世界
で、牛首や抛水林、遠方には、雄大
で東北以北最高峰の燧ヶ岳がそびえ
ています。

下の写真は、尾瀬ヶ原（上田代）
から見た雄大な姿の至仏山の様子で
す。燧ヶ岳とは対照的に真っ白な姿
を見せています。

次頁の写真は、尾瀬ヶ原にある原
の川上川橋の様子です。橋桁の上
にも相当の雪が積もっています。



▲尾瀬ヶ原（上田代）より至仏山



▲尾瀬ヶ原（正面は燧ヶ岳）

(H24.2.6撮影 写真提供：群馬県)



▲原の川上川橋の様子
(H24.2.6撮影 写真提供：群馬県)

檜枝岐臨時事務所の雪下ろし

シーズン中は財団の檜枝岐臨時事務所として利用している檜枝岐村立老人憩いの家の除雪を、昨年同様に尾瀬ガイドとして活動している檜枝岐の「菜一RAKURAKU」さんにお願ひし、1月10日と2月3日に雪下ろし作業を行いました。

今年の尾瀬は積雪量が少ないですが、それでも尾瀬の玄関口、檜枝岐村では、相当な雪が積もっているようです。

燧裏林道の様子

皆さんの印象では、秋のブナ林、もしくは、沢山の湿原があるイメージが強いかもしれませんが、写真は2月の裏燧橋の様子です。積雪は約3メートルありました。



▲燧裏林道（上田代）の様子
(H24.2.14撮影)



▲裏燧橋の様子
(H24.2.14撮影)

動物の足跡

尾瀬の大型動物には、ツキノワグマ・ニホンジカ・ニホンカモシカなど、小型動物には、ホンドキツネ・ホンドタヌキ・ホンドテン・ホンドイタチ・ノウサギ・ホンドオコジョなど多くの野生動物が棲息しています。

特に一年中活動しているオコジョは、そのかわいらしい姿から登山者の人気者です。夏は茶色毛をしていますが、冬になると全身の毛が白く変化します。



▲冬毛の白いオコジョ
(写真提供：菅家俊史氏)

冬の無人の尾瀬では、雪面に様々な動物たちの足跡があります。残雪の尾瀬を訪れたら動物たちの足跡を探してみてください！



▲雪面に残る動物の足跡

雪の中の昆虫

ここでは、セツケイカワゲラについて、ご紹介します！

セツケイカワゲラはクロカワゲラ的一种で、体長は10mmほどです。カワゲラは成虫になると、翅があり飛ぶことができますが、このセツケイカワゲラは、翅がなく飛ぶことができません。このため、ひたすら歩いての移動となります。

一般的に昆虫は寒さに弱いため冬には活動をしないものですが、この昆虫は低温には強く、反対に高い温度に弱いのです。



平成24年シーズンの

尾瀬についての

お知らせ

震災の影響及び放射線の測定状況

○各市町村が公表している情報では、健康に影響を及ぼす数値は報告されていません。東北地方太平洋沖地震の被害にあわれまされた皆さまに、謹んでお見舞い申し上げますとともに、被災地域の皆さまの一日も早い復興を心からお祈りいたします。

尾瀬では、震災の直接的な被害はなく、その後も確認されておりません。放射線量については、各県にて測定された数値にて確認していますが、通常レベルの範囲内です。尾瀬国立公園内の測定については、群馬県にて昨年5月に測定したところ、最大でも毎時0.300マイクロシーベルト(地上0m)と、文部科学省が示した学校の放射線量暫定基準値(毎時3.8マイクロシーベルト)の12分の1以下でした。

なお、檜枝岐村では、平成24年シーズンから7地点(役場前、アルザ尾瀬の郷、御池口ツジ、沼山峠休憩所、尾瀬沼ヒュッテ、見晴十字路、駒の小屋)で放射線量を毎日

測定し、尾瀬檜枝岐温泉観光協会のホームページで公表する予定です。また、国道352号線金泉橋付近(新潟県との県境)と馬坂峠(栃木県との県境)も、不定期ですが測定を予定しております。

集中豪雨・台風被害の復旧状況

○9月末には全面復旧しました。

昨年7月末の集中豪雨、9月の台風と大雨により多数の木道が水没・流失しました。しかし、関係者による木道の付け替え等の迅速な復旧作業が行われたため、通行止め区間はありませぬ。

交通規制

○鳩待峠・沼山峠で交通規制が実施されます。

鳩待峠では116日間マイカー及び二輪車(オートバイなど)の規制が行われます。沼山峠ではシーズンを通して全車両(ただし、許可車及びシャトルバス等を除く)が規制されます(詳細は、尾瀬保護財団ホームページでご確認ください)。

尾瀬認定ガイド

○ガイド依頼の際は、尾瀬認定ガイドかどうかご確認ください。

尾瀬の魅力、貴重さ、保護活動を伝え、安全や行程管理を行う尾瀬認定ガイドを、環境教育やエコツアーのガイドに是非ご利用ください。

〔登録者数〕

- ・尾瀬自然ガイド 2300名
- ・尾瀬登山ガイド 47名

(平成24年2月末現在)

尾瀬山開き

開催日：5月22日(火)

開催場所：群馬県片品村戸倉

※この山開きはセシモニーであり、周辺道路の冬期閉鎖が解除されるのは4月下旬頃です。春先の入山にあたっては十分な装備を整えてください。

至仏山

植生保護の観点より、例年実施している残雪期の登山道閉鎖については、次のとお

ります。

〈登山道閉鎖期間〉

5月7日(月)～6月30日(土)

その他にも、至仏山には利用に関する様々なルールがありますので、注意して利用してください(詳細は、尾瀬保護財団ホームページ等でご確認ください)。

公衆トイレ・キャンプ場

1 見晴公衆トイレと見晴キャンプ場

環境省では、合併浄化槽に亀裂が入り使用できなくなった見晴公衆トイレを工事します。工事期間中は仮設トイレ10基を設置します。

また、その工事の影響で、平成24年シーズンは見晴キャンプ場が閉鎖されます。こちらは代替地はありません。尾瀬沿か山ノ鼻のキャンプ場をご利用いただきますようお願いいたします。

2 馬坂峠公衆トイレ

昨年11月に帝釈山の登山口にあたる馬坂峠に公衆トイレが完成しました。平成24年シーズンからご利用いただけます。

3 田代山公衆トイレ

田代山湿原(山頂)の公衆トイレは工事

のため利用できません。猿倉登山口と馬坂峠登山口の公衆トイレを利用してください。また、入山前にトイレを済ませることも、携帯トイレの携行をお願いします。

ビジターセンター開所

○尾瀬沼ビジターセンター(環境省)

5月1日(火)【予定】

○山の鼻ビジターセンター(群馬県)

5月13日(日)【予定】

山の鼻ビジターセンター

休憩や環境学習の場所として、山の鼻ビジターセンター東側にウッドデッキが増設されました。平成24年シーズン中には、簡易な雨よけも整備される予定です。

フィールド講座の開催

尾瀬保護財団では、今年も『尾瀬を知る』フィールド講座』を開催します。尾瀬の隠された魅力を発見し、より充実した尾瀬を楽しむためにも是非ご参加ください(詳細は、同封のチラシをご参照ください)。

財団ホームページ

1 山ノ鼻ライブカメラの設置

シーズン中、山ノ鼻地区のライブ映像をご覧ください。

2 携帯サイトの開設

「今朝の山ノ鼻」を含む各種お知らせやライブ映像などを配信します(URL等については裏表紙をご覧ください)。

3 ツイッターによる情報配信

ツイッターにより尾瀬情報などを配信しています。また、尾瀬の質問も受け付けています。ぜひフォローください(アカウント等については裏表紙をご覧ください)。

尾瀬ハイキングガイド

尾瀬に初めて行かれる方や、何を準備したらよいかわからないといった方のために、「尾瀬ハイキングガイド」をご活用ください。尾瀬のマナーや地図、また装備品について掲載しています。尾瀬保護財団のホームページからダウンロードできます。なお、英語版・韓国語版・中国語版もあります。

■連載コラム

認定ガイドがススめる とっておきの尾瀬

その13 感動の確率は「ほぼ100%！」 (干明太郎 (尾瀬自然・登山ガイド))

(片品山岳ガイド協会 Tel 0278-58-7801 URL <http://oze-guide.com/>)

A1 尾瀬は知名度が高く、多くの人が一度は行きたい・見たい・触れたいと考える場所のようです。その期待を裏切らない静寂さと神秘性、原生的で多様な自然環境、隔絶された場所に人知れず咲く高嶺の花など、多くの魅力に溢れています。早春から晩秋にかけての移り変わりだけでなく、湿原・湖・溪流・滝と同じ尾瀬でも場所によって大きく異なる景観も魅力の一つと言えましょう。とても一度に全部を見て、楽しみ尽くすことはできません。どこから見るか？ 何から見るか？ じっくりと調べてみましょう。

A2 初めての方には「尾瀬沼湖畔と大江湿原」をお勧めします。入山が容易で、山岳・湖・湿原が一体となった神秘的な景色が広がり、感動の確率はほぼ100%！ 自然が好きになり、間違いなくまた来たくります。めずらしい花やたくさんの種類を見たいのなら尾瀬ヶ原へ。のめり込んだら裏燧の熊沢田代&上田代、会津駒ヶ岳と中門岳の別天地へどうぞ！

A3 なにはさておき「雨具」でしよう。特に春・秋の冷たい雨は命の危険もあります。出発時が快晴でも必携で、山に行く場合には常にザックに入れておくよう心掛けましょう。他には地図(イラスト

ト地図はダメ)、ナイフ、ヘッドランプ、ライターの4点です。山ではいつ「想定外」が起こるか分かりません。地図＝現在地を知るためです。ナイフ＝なければ細紐1本切ることができません。ヘッドランプ＝山中で暗くなったらお手上げです。一晩山の中で過ごすので、下山するのどちうらがいいですか。「ミソレの中で一晩！」想像してみてください。

A4 ちょっと事情があつて・・・書けません。できれば直接聞いてください。

A5 最近では「尾瀬学校」という大切な「自然教育」を請け負う事が多く、①自然に親しむ ②自然を慈しみ守る ③環境保護と美生活での実践、を尾瀬で学び・楽しく習得できるよう努めていきます。中高年の方々は、「自然を楽しみながらの健康増進」を目的に歩きますが、安全を第一に、背伸びをしない自然の楽しみ方をお伝えできればと思います。



その14 自然のスケールと人間の小ささ (飯野幹雄 (尾瀬自然ガイド))

(尾瀬ネイチャーガイドの会 Tel 027-266-8511 URL <http://oze-guide.net/>)

A1 季節を変えて、少なくとも3回、同じ場所を知的好奇心をみなぎらせて歩くと、新しい発見がありますよ。

A2 何と言っても「鳩待峠」山ノ鼻の道のりです。鳩待峠は分水嶺で、そこに降った雨や雪は、峠を境にそれぞれ太平洋と日本海へ流れ下ります。鳩待峠から少し歩くと通常の沢と湧水の沢とがあり、まわりの地質・地形を合わせて考えると面白いです。至仏山全体が見渡せる展望台も捨てたものではありませんが、その手前に生えている雪圧で根曲がりしたブナや、根元を太らせているクロバなど、雪との格闘の中で生きている樹木たちの生き生きとした姿を読み取るすることができます。また昨年の大雨・洪水による爪痕があちこちに残っているようすは、私たちの生活に必要な空気・水・火が大切である一方で、人間が「コントロールすることの難しさ」を教えてください。

A3 「ルーペ」：チングルマが種子をつけたときにルーペで覗くとその姿が螺旋状になっていることに驚きます。採取不可の国立公園では必携です。「望遠鏡・デジタル」：発見を記録し、後で比較して考察するために便利な道具です。



A4 他の場所でも知り合った知人と尾瀬でバツリと出会い、いつのまにか私のガイドツアーの参加者となって「解説」を聞き、のちのち「楽しいことをやってもらえますね」とお褒めの言葉をいただいたのが印象的でした。また、子どもの「why?」の問いかけに一生懸命に答えていると、いつのまにか仲良くなっている事が多く、幸せな気持ちになります。

A5 ガイドをするという事は、お客様との限られた時間を共有する事なので、①挨拶、②お礼、③時間厳守という基本ルールを守り守りたいですね。これは社会を作る上での基盤と考えています。それから、自然のスケールと人間の小ささを感じられるような働きかけをしたいですね(雪圧に負けても尚、天をめざすブナの木などを例にして)。

[ガイドさんへの質問]

Q1 尾瀬の楽しみ方、Q2 オススメの尾瀬スポット、Q3 尾瀬歩きに便利な道具・装備
Q4 思い出のエピソード、Q5 今後の抱負・目標

■連載コラム

認定ガイドがススめる っておきの尾瀬

その15 幅広い世代の方に好きになってもらえるような尾瀬であってほしい 〈星茂俊(尾瀬自然・登山ガイド)〉
(尾瀬・檜枝岐案内人の会 Tel 0241-75-2432 URL <http://www.oze-info.jp/>)

A1 夜行も含めて日帰りではなく、1泊2日ぐらいしてください。尾瀬内に泊まれば1日の変化を見ることが出来ます。また、付近の温泉宿に泊まれば心も体もリフレッシュできます。尾瀬認定ガイドと一緒にトレッキングすれば、プラサルファの知識を得られます。また、場所や季節によって尾瀬の姿が変わります。いろいろな方のお話を参考に再訪してみてくださいいかがですか？

A2 私の好きな沼尻と渋沢大滝をオススメします。沼尻は尾瀬沿一周の休憩ポイントで、燧ヶ岳を背に尾瀬沼と沼尻休憩所、池塘に映る空の青さや雲が美しいです。また、渋沢大滝はアクセスしにくいですが、滝の近くまで行けますし、ブナやナラ、トチノキなどの紅葉が綺麗で、何と書いても歩く人が少ない穴場ルートです。時期としては6月中旬から7月上旬をオススメします。梅雨時期で自立つ花は少ないですが、小さな高山植物が多く咲きます。

A3 サーマス(魔法瓶)です。トレッキング中にコーヒー等のお湯用に使いますが、朝沸かして入れればほとんど温度は下がりません。夏でも氷を入れておけば冷たい状態でも飲むことが出来ます。携帯コンロよりもコンパクトでお湯を沸かす手間が省けるので、2サイズを用途に応じて使い分けしています。

A4 夏の雨の中を白砂峠から見晴に下る途中で、「この辺りでは雨が降ると、木道の下にいるサンショウウオが木道に出でくる」といふ説明をしたところ、見晴付近でサンショウウオが歩いてきたのを発見し、お客様には喜ばれました。また、小学生をガイドした際にもオコジョの目撃場所を話したところ、(私は見逃しましたが)グループの子どもたちが目撃し、オコジョ発見証を買ったことが出来ました。偶然ですが自分が説明したことが目の前で起こるといふ、良いガイドリングをしたなあと思います(笑)。

A5 私の住む檜枝岐村の沼山峠入山者数は前年に比べ4割も減少しましたが、そんなシーズンでも尾瀬はいつもと変わらぬ姿を見せてくれました。安全第一のガイドを心がけていますが、地元の文化を織り交ぜながら、尾瀬の空気を肌で感じていただきたいと思っています。幅広い世代の方がここを好きになり、また来てくれるような尾瀬であってほしいです。



その16 感謝の言葉の大切さをいつまでも持ち続けて欲しい 〈栗原洋三(尾瀬自然ガイド)〉
(尾瀬保護財団(尾瀬自然解説ガイド) Tel 027-220-4431 URL <http://www.oze-fnd.or.jp/>)

A1 楽しい尾瀬を体験するために自分の体調をベストにしておきましょう。雄大な風景、可憐な花々を前に自分が「へばって」いたのでは最悪です。日頃から体力強化と体調管理を心掛けましょう。私たちガイドと歩く時も、解説を聞くだけでなく、質問することで尾瀬の知りたかった疑問が解け、楽しみも倍加されるでしょう！

A2 静かで落ち着いたコースならアヤマ平ですね。すれ違う人も少なく全てを独り占め。ゆっくりと心ゆくまで自然と触れ合つことが出来ます。特にキンコウ力が湿原一面を黄金色に染める様は見応え十分です。また、横田代やアヤマ平では過去の強者が楽しんだ後処理として、荒廃した湿原が復元されているのを見るのも、尾瀬を知る上で勉強になります。

A3 天気予報が「晴」であっても雨合羽はいつもリュックに!! 山の天気は気まぐれで急な雨や夕立、また朝夕の気温の変化や風対策など、雨の時ばかりでなく保温にも十分な機能があり必需品です。また、自分の足は頑健であっても靴との一体感が無いと思うように歩かせませんから足に合ったトレッキングシューズを用意しましょう。スニーカーの人を多く見かけますが登山では疲れやすく、雨で足が濡れてしまえば悪くならないです。

A4 中学生をガイドした時に、歩くのが得意という女子生徒が居たの

ですが、すぐに遅れてしまつたので手を取ったり、足の位置を教えながら山ノ鼻に到着しました。同行の同級生も応援・激励の声を掛けながら、短かいコースを取ることに皆、気持ち良く了解。帰りも皆で応援しながら鳩待峠に無事到着。その時、女子生徒が「今日1日歩いて、とても自信を持つ事ができました。これも皆様の協力・激励のおかげでした」と元気に話し、周りから「良かった!頑張ったね!」と拍手がありがたみに良かった。この子たちが協力・理解する事の大切さ、感謝の言葉の大切さをいつまでも持ち続けて欲しいと願う1日でした。

A5 その日、その時、その人に合った尾瀬の雄大さや素晴らしさを知っていたら、また季節を変えて来たいと思われようなガイドリングをしたいと思います。



前橋市内のご自宅兼アトリエにて、「淡彩画と尾瀬」について、唐澤さんが、これまで、どのように向き合ってきたのか、お話しを伺いました。

尾

瀬で淡彩画を描くきっかけ

私は始め趣味で絵を描いていたわけですが、勤めが林野庁の出先機関の前橋営林局（現在は関東森林管理局）でしたので、山とは随分と関係がありました。しかし尾瀬へ仕事として行った事は少なく、週末に遊びに行くくらいでした。

最初は油絵で、4号ほどの小さな版を持って、何枚か描いていたのですが、どうしても筆を洗う油の排水に困ってしまうので、尾瀬は油絵を描ける場所ではないと感じました。それに油絵は画材が重いので、画材の軽い淡彩画（淡彩画とは、線画の下書きに水彩絵の具で淡く色を重ねる描き方のことです）に転向しました。

淡

彩画と尾瀬の魅力

淡彩画はそんなに発表している方が多くないので、私が元祖だと思っ人もいきましたが、絵を描く人は、エスキース（下書き、スケッチ）として水彩画に描き、それを基にして絵

を制作する人が多かったので、淡彩画そのものは新しいものではなく、かなり以前からありました。しかし私の場合には、それを一つの作品にまとめて、みんなの目にとまるようにすることが、目新しかったのだと思います。

尾瀬は、何時行っても四季を通じて魅力が沢山あり、絵の対象には事欠かないとあって、とりこになってしまいました。



▲淡彩スケッチのカレンダーをいただきました

絵

の講師として

平成元年に勤めを辞めた時に、前橋市内で菊屋さんという陶器店がギャラリーをはじめており、そこで習いたいという人がいましたので、アドバイスを頼まれ、講師を始めたのがきっかけでした。私も人に教えた経験はなかったのですが、始めてみると、皆さんも楽しくやっていたので、それが長続きして20年以上教えてきました。

また、日本美術会主催の尾瀬での写生会の講師をしたことがきっかけで、現地でも10年ぐらいい教えてきました。1回につき10人〜15人ほど教えてきましたが、私にとっても随分勉強になりました。

現在はご自宅兼アトリエで淡彩画の会を主宰されている唐澤さん。このあとも尾瀬の楽しかった思い出などを話してくださいました。

昭和28年に初めて尾瀬を訪れた唐澤さん。回数にすると延べ500回は尾瀬を訪れたそうです。これからは淡彩画を通じて、多くの方に尾瀬の魅力を伝えていきたいと思えます。



▲お話しを伺った唐澤さん ご自宅兼アトリエで

○唐澤 恭二からさわ きょうじ

淡彩画の会主宰

日本美術会会員

群馬美術家集団レオリスト会員

著書

「淡彩の尾瀬」

「淡彩スケッチのすすめ」

「四季の風景と花を描く」

いずれも日貿出版社から刊行

エッセイ

尾瀬好日

長岡技術科学大学助教

山本 麻希

「夏の思い出」

私が初めて尾瀬に行ったのは、2005年、当時まだ新潟県立長岡高等学校の生物部の顧問をしていた頃でした。ベテラン顧問の山田先生と生徒たち15名と一緒に、魚沼ルートから入りました。御池の駐車場に車を止め、行きは沼山峠までバスで行き、そこから、第二長蔵小屋を目指しました。8月上旬だったので、ニッコウキスゲはもう終わりごろでしたが、ヤナギラン、コバギボウシ、コオニユリ、オタカラコウ、ワレモコウなどの美しい植物が湿原に咲き、生徒たちとその名前を確認しながら楽しく歩を進めました。



▲コバギボウシ
(2005.8.7 筆者撮影)



▲コオニユリ
(2005.8.7 筆者撮影)

ところが、夕方になると突然の落雷。最後の2kmくらい、全力疾走をして、ようやく

山小屋へとたどり着きました。生徒達も私も初めての尾瀬の山小屋です。心地よい疲れを山小屋のお風呂で癒し、夜は、トランプ大会で盛り上がり、夜なべをして遊んだ楽しい思い出が今も残っています。翌日の朝は、昨晩の夕立が嘘のような快晴に。朝靄に包まれた尾瀬ヶ原を散策しました。早朝は、霧が濃いのですが、次第に陽がさすと急に視界が晴れ、目の前の至仏山がはっきりと見え、その美しさに感動したのを今も覚えています。その後、ヨッピ吊り橋く東電小屋を通って、平滑ノ滝、三条ノ滝へ。豪快な水しぶきをあげながら勇壮に流れ落ちる滝をみてみると、夏の暑さもふっとんでしまいます。そのまま、燧裏林道を歩いて御池の駐車場までたどり着きました。生徒たちは、途中、登山靴が壊れる者、疲労困憊で根を上げる者もあり、ベテランの山田先生についていくのが精一杯でした。それでも最後に御池の駐車場に着いた時には、みんな達成感がいっぱいすばらしい表情をしていました。

私は2007年に高校の教諭を辞め、長岡技術科学大学の教員となりました。そして、2009年より尾瀬保護財団の評議員となり、その年の尾瀬サミットが魚沼の東電小屋での開催だったことから、4年ぶりに、評議員や理事のみなさんと一緒に御池から東電小屋まで尾瀬の山道を楽しみました。魚沼の桜

井さんのガイドもあって、尾瀬の自然を満喫しながら、夏の尾瀬路を再び歩かせて頂きました。以前、生徒達と来たときも魚沼ルートはなかなかのハードコースで、若者すら根をあげていたものですが、評議員や理事のみなさんはとても健脚で、楽しそうに登っていらつしやったのが印象的でした。誰と来ても、そして、何度来ても、夏の尾瀬は美しいですね。今度は、是非、家族と一緒に夏の尾瀬に挑戦したいと思っています。



▲尾瀬サミット2009
(2009.8.3 筆者は左端)

「私のお気に入り、それは横田代」

私は2年半前に関西へ転居し、それにより尾瀬は遥かな遠い存在になってしまいました。転居するまで年間15回前後は通い詰めていたのですが転居後は3〜4回に減りました。しかしそれでも3〜4回とはいえ、片道700kmもの距離をものともせず私をいざなう尾瀬の魅力はどこにあるのだろうか?とあらためてこのオフ、色々と思いをもぐらしてみしました。

入山者は四季折々、足元に咲く色鮮やかな花々に見いり、森では鳥たちのさえずりを聞き、至仏山や燧ヶ岳を望む尾瀬ヶ原、周囲の山々を湖面に映し出す尾瀬沼など美しい景色に尾瀬の魅力を実感として感じることでしよう。それを私自身に置き換えてみるとうなごいでしょうか? もちろん四季それぞれに咲き乱れる可憐な花々の美しさや周辺の景色はどれをとってみても甲乙つけ難いものです

が、色々考えたその答えとして尾瀬での私のお気に入りには鳩待通りの横田代が一番でした。どうして横田代?と思われるかも知れませんが、私がこの横田代を気に入った理由には、山を越えて吹き渡る風があります。標高が高いせいか、吹く風はいつもカラッとすっきり少し潤いもあるように思っています。

横田代へは鳩待峠から取りつき樹林帯を切り開いた道をしばらくは広葉樹、針葉樹の混成林の中をゆるゆると登って行きます。夏の晴れた日でも針葉樹の多いところは薄暗く、明るい広葉樹林帯では葉がびっしりと繁茂しているの見通しはほとんどなく、只、汗をかきながらひたすら木道の上を歩き続けます。「森歩きがまだまだ続くのかよお」と思い始めたころ突然、広々と開け放たれた横田代の入り口へポンと飛び出します。

横田代は右から左へ、奥から手前への傾斜湿原ですが、尾瀬ヶ原や尾瀬沼のように行き交う人もなく小さな池塘は青い空と白い雲を映し出し、明るく広がる湿原の彼方へ伸びゆく木道は真に天空の彼方へと続く階段のようです。周囲にはあの忌まわしい「ミミ」が見当たらず、振り返れば歩いてきた樹林帯の向こうに至仏山がそのたおやかな姿を見せてくれ

ます。

夏の湿原は緑に光り輝き、秋には色鮮やかな草紅葉が見る人を楽しませてくれます。途中のテラスで仰向けになると青い空が近くなり、吹く風の音だけが聞こえ、天空と自分が一体になってしまいそうです。目を閉じれば吹き渡る爽やかな風が体を駆け抜け、汗もさあつと気持ちよく引いていき、そのまま午睡と洒落込めば、もうこれこそ至福のひとつとなることは間違いないでしょう。

こんな素敵なお気に入りがあるからこそ私は来季もまた尾瀬に出かけるのでしょうか。



▲天空の彼方へ続く階段のような横田代の木道を歩く筆者

尾瀬好日

尾瀬ボランティア

藤堂 喜好 (No.6263)

「尾瀬回想と」

ボランティア活動」

私が尾瀬に足を踏み入れたのは今から40数年前でした。いわきから常磐線の特別列車「尾瀬号」で東京に出て沼田駅着、バスで富士見下へ。早朝暗いうちに出て富士見峠からアヤマ平へ、そして鳩待峠を通り小至仏、至仏山に登り山ノ鼻に一泊。翌日は尾瀬ヶ原を抜け尾瀬沼の長蔵小屋に泊まり檜枝岐に下山のコースでした。

当時のアヤマ平は登山者に踏み荒らされて裸地化していましたし、山小屋前には無造作に洗濯機が置かれ、夜の小屋周辺は若者で溢れ返り、食堂は都会の居酒屋を連想させるようだったと記憶しています。

また、平成5年5月に、会津駒ヶ岳に登った時の事です。山開きには地元の濁り酒を山頂で振る舞う行事があり、10本入りの木箱を何ケースも檜枝岐の若者が担いでゆくのです。一人コップ一杯なので私はあまりの旨さに3〜4回並んで「雪見酒」を頂いたものでした。

駒の大池付近からの燧ヶ岳や田代山、帝釈山の展望はすばらしい。下山してみると腰に付けていた愛用の無線機が無いではないか。戻るわけにも行かず、



▲駒の大池付近で空瓶をかかえ雪見酒を飲む筆者 (H5.5)

観光案内所に飛び込み下山中に落としたことを説明しました。数日後、見つかったとの連絡があり、飛び上がった言んだのを覚えています。お骨折りにいただいた檜枝岐の職員の方ありがとうございました。

「あれから40年」ボランティアになろうと私は平成22年6月に財団の尾瀬ボランティア講座を受講しました。湿原や小さな流れ、池塘、可憐な水芭蕉、咲き乱れるニッコウキスゲ、至仏山や燧ヶ岳からの壮大な眺望、言葉では言い尽くせない魅力が尾瀬にはあります。「いつか好きな尾瀬でボランティアでお手伝いしたい」と、どこか憧れのようなものを抱いていたのかも？ 初日の研修を終えて、山の鼻ビジターセンター職員が歓迎会を

開いてくれて「ボランティアも同じ仲間ですよ」と言うメッセージが伝わってきて感激しました。

デビューは同年10月9日の沼山峠登山口の啓発活動でした。緊張しっぱなしでしたが財団職員のコーディネートがあり無事終了。その後尾瀬沼を一周。翌日も沼山峠でボランティアさんと活動しましたが、今度は固さがとれ声かけのほか、登山者のシャッター役を買うなど笑顔で気楽に活動ができました。昨年は啓発活動のほか、「ありがとう尾瀬」で尾瀬沼清掃活動に参加させていただきました。

私は素晴らしい尾瀬の自然を多くの方に広めたいし、マナーを守って貴重な宝物を次世代に引き継ぐお手伝いを微力ながらしたいと考えております。



▲沼山峠でボランティア仲間と初めての啓発活動 (H22.10.9 筆者は左)

尾瀬ボランティア情報

このコーナーは尾瀬ボランティアに登
録されている方のためのページです。

●第16回尾瀬ボランティア総会を

開催しました●

16回目の尾瀬ボランティア総会を3月3日
(土)に埼玉県さいたま市の埼玉会館で開催し、
58名のボランティアさんが参加しました。

総会に先立って、お二人のボランティアの方
に被災地でのボランティア体験をお話しいた
だきました。

さいたま市の佐野亮平さんは、昨年は震災ボ
ランティアとして何度も被災地を訪れ活動をさ
れました。



▲震災ボランティア体験について
お話しいただいた佐野さん

仙台市の小野悠さんは、自身も被災者であり
ながら、泥の掻き出しボランティアなどをされ
ました。また、シーズン中は尾瀬でも入山口啓
発やお話ボランティアなどたくさん活動をし
ていただきました。



▲震災ボランティア体験について
お話しいただいた小野さん

総会では、千葉県の渡部勝司さんを議長に、
尾瀬保護財団から今年度の活動報告と平成24年
度の活動計画を発表しました。

総会後は交流会
を行い、ボランテ
ィアさんとスタッ
フが参加して交流
を深めました。



▲総会の議長を務めていただいた渡部さん

●平成24年度

尾瀬ボランティア活動計画●

平成24年度の活動計画を先日開催された尾瀬
ボランティア総会で発表しました。活動初日は、
5月19日(土)の鳩待峠と沼山峠で、10月28日
(日)の至仏山東面登山道の柵倒しまでシーズン
を通して現地での活動を行います。

また、2012年シーズンから、新たに山ノ
鼻の至仏山登山口で入山口啓発活動を行いま
す。これは、至仏山登山者に東面登山道の上り
専用利用や、携帯トイレの携行、ストックキャ
ップの着用などを呼びかけるものです。

活動計画はこの機関誌に同封していますの
で、ご確認ください。なお、活動計画をお送り
した後に決まった事項などについては、機関誌
や財団ホームページ内のボランティア専用ペー
ジに随時掲載します。

2012年シーズンも積極的なご参加をよろ
しく願います。

○第16回NHK「わたしの尾瀬」写真展 高崎展・前橋展を開催しました

尾瀬の魅力や貴重さを紹介するための「わたしの尾瀬」写真展を平成23年12月16日（金）から21日（水）まで高崎シティギャラリーで、平成24年1月17日（火）から23日（月）まで群馬県庁県民ホールで開催しました。

高崎展では、初日の16日に表彰式が行われました。表彰式後は、尾瀬保護財団スタッフによるスライドショーを実施し、今シーズンの尾瀬を振り返りました。



▲高崎展のようす



▲財団スタッフによるスライドショーのようす

○第8回至仏山保全対策会議を 開催しました

平成24年2月29日（水）に群馬県庁で至仏山保全対策会議を開催しました。

会議では、至仏山環境調査専門委員会の中間報告があり、登山道の付け替えを検討している3区間（東面登山道上部、小至仏山南面、オヤマ沢田代）について、現在の検討状況が報告されました。

また、平成23年度に至仏山で行った対策の総括と今後の課題についての報告や平成24年度のスケジュールについて提案をしました。

委員からは至仏山の保全対策についてしっかりと取り組むことや、プロセスを大切にすることがこの意見が出されました。



▲至仏山保全対策会議のようす

○2012年1月～3月の

尾瀬保護財団の主な活動

- | | |
|--------|---|
| 12日 | 尾瀬保護財団第36回理事会・評議員会開催 |
| 10日 | 第11回奥利根自然センター再開委員会へ出席
尾瀬・奥利根地域の自然を考えるシンポジウムへパネリストとして参加 |
| 6日 | 「尾瀬での顧客満足度を高めるための取組」について講師対応 |
| 5日 | 尾瀬国立公園シカ対策協議会へ出席
ツキノワグマ対策協議会開催 |
| 3日 | 尾瀬自然解説ガイド会議開催
尾瀬ボランティア総会開催 |
| 3月1～2日 | 尾瀬国立公園シカ対策協議会へ出席 |
| 29日 | 第8回至仏山保全対策会議開催 |
| 19日 | 環境省エコツアーリズム推進アドバイザーとして講師派遣（兵庫県宍粟市） |
| 16日 | 尾瀬ガイド協会福島支部研修へ講師派遣 |
| 14日 | 第9回尾瀬国立公園協議会へ出席 |
| 12日 | 群馬県野生生物調査・対策報告会へ講師派遣 |
| 6日 | 第9回尾瀬国立公園快活利用の促進（利用分散等）に関する小委員会へ出席 |
| 2月4日 | 平成23年度第2回尾瀬賞運営委員会開催 |
| 31日 | 尾瀬ガイド協会認定審査委員会・理事会へ出席 |
| 27日 | 尾瀬ガイド協会認定審査委員会・理事会へ出席 |
| 26日 | ツキノワグマ対策：群馬県訪問調査 |
| 25日 | ツキノワグマ対策：新潟県訪問調査 |
| 18日 | ツキノワグマ対策：檜枝岐村訪問調査 |
| 17日 | ツキノワグマ対策：魚沼市訪問調査 |
| 15日 | 第9回奥利根自然センター再開委員会へ出席 |
| 13日 | ツキノワグマ対策：片品村訪問調査 |
| 1月5日 | 尾瀬ヶ原（群馬県側）地区傷病体制打合せ |



寄付のお願い

尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております。

当財団は、尾瀬国立公園において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を行ない、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与する活動を続けております。

◆個人住民税の寄付金控除の対象に尾瀬保護財団が指定されました。

個人住民税の寄付金税制の拡充により、各都道府県・市区町村が条例で指定した法人に対する寄付が、住民税の控除対象となるようになりました。尾瀬保護財団は下記の県・市・町から指定を受けています。(財団への寄付を行った翌年1月1日にこれらの県・市・町にお住まいの個人が対象となります。)

福島県、群馬県にお住まいの寄付者：個人県民税

福島県富岡町、群馬県前橋市、群馬県高崎市、群馬県桐生市にお住まいの方：個人県民税と個人市民税・町民税

◆また、尾瀬保護財団は「特定公益増進法人」に指定されており、当財団への寄付は所得税・法人税の優遇措置を受けることができます。

※なお、所得税、住民税控除の対象となる方には、領収書の送付時にご案内資料等をお送りします。

◆企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、下記の制度があります。

種類	条件	特典
特別協賛寄付	3年に渡る毎年30万円以上の寄付、または一時の100万円以上の寄付	①財団機関誌、財団ホームページに企業等名称、ロゴマーク、メッセージを1年間掲載 ②尾瀬国立公園ロゴマークの取扱要領に基づき使用申請ができ、許可後は無償で1年間使用
協賛寄付	3年に渡る毎年10万円以上30万円未満の寄付、または一時の30万円以上100万円未満の寄付	①財団機関誌、財団ホームページに企業等名称を1年間掲載

■寄付につきましては、財団事務局（群馬県庁17階・027-220-4431）にご来訪いただくか、財団にご連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします。

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095
	福島銀行本店営業部	普通	0590088
	大東銀行福島支店	普通	1287138
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428
	東和銀行本店営業部	普通	0975531

新潟県	第四銀行県庁支店	普通	1182791
	北越銀行県庁支店	普通	0199366
	大光銀行新潟支店	普通	0837334

特別協賛寄付者のご紹介

※寄付日順、敬称略



2012年2月27日寄付

ベisiaグループ ベisiaグループ様より308万円余りをご寄付いただきました。ベisiaグループ様では、グリーン家電エコポイント及び住宅エコポイントの交換商品として商品券を提供しており、商品券交換金額の一定割合を、環境保全等を行っている団体等に寄付する制度のもとにご寄付いただいたものです。

(通算寄付総額 11,434,409円)

寄付者からのメッセージ：ベisiaグループは、「地域共生」を理念に自然環境保護にも積極的に取り組んでいます。今回の環境寄付に当たっては、当グループ発祥の地である群馬をはじめ、出店エリアの福島、新潟、栃木に広がる貴重な自然「尾瀬国立公園」の環境保全と適正利用を推進している尾瀬保護財団を選定させていただきました。群馬県が誇る豊かで美しい自然が、いつまでも多くの人々に楽しんでいただけることを、心より期待いたします。



2012年2月23日寄付

株式会社コメリ コメリ緑資金の会様より50万円のご寄付をいただきました。このご寄付は、ホームセンターを展開している株式会社コメリ様が、利益の1%を緑の育成の為に社会還元する目的で設立されたコメリ緑資金様より助成金としていただいたものです。今回で3回目のご寄付になります。

(通算寄付総額 1,500,000円)

寄付者からのメッセージ：「コメリ緑資金の会」は、日頃お世話になっている出店地域が美しい花や緑に囲まれ豊かであって欲しいと願い、平成2年より利益の1%を原資に助成活動を行なっています。尾瀬のかけがえのない自然遺産が、未来につながる次世代の子どもたちへと永遠に引き継がれることを願っています。

尾瀬紀行

尾瀬紀行（信託ファンド）で收受した信託報酬の一部として総額631万円余りをご寄付いただきました。
平成19年より今回が5回目のご寄付となります。（通算寄付総額 34,773,077円）



第四銀行

2011年11月4日寄付

株式会社第四銀行 今年度は64万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額 4,037,045円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるために今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四銀行はこれからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



第四銀行グループ
新潟証券株式会社

2011年11月4日寄付

新潟証券株式会社 今年度は17万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額 1,378,504円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるために今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。新潟証券は第四銀行グループとして、これからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



群馬銀行

2011年6月13日寄付

株式会社群馬銀行 今年度は109万円余りをご寄付いただきました。（財団設立当初からの寄付を含め、通算寄付総額 24,239,008円）
寄付者からのメッセージ：信託報酬の一部が尾瀬保護財団への寄付となる仕組みの投資信託を取扱っており、多くのお客さまの善意の集大成を寄付させていただきました。趣旨にご賛同頂き投資信託をご購入頂いた全てのお客さまに深く感謝いたします。



東邦銀行

2011年6月10日寄付

株式会社東邦銀行 今年度は123万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額 5,834,381円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けることを目的として、当ファンドの販売・運用を通じて地域社会の発展に貢献するとともに、広く尾瀬の自然を愛する皆様と共に力を尽くしていく所存であります。今後とも積極的にCSR（企業の社会的責任）を重視して取組んで参ります。



2011年6月10日寄付

DIAMアセットマネジメント株式会社 今年度は315万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額 17,386,539円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の美しく貴重な自然を後世に受け継ぐために今回の寄付金が有効に活用され、環境保全の一助となることを期待しております。DIAMはこれからも金融の仕組みを通じて、社会に貢献する資産運用会社を目指します。



2011年7月6日寄付

エース株式会社 エース株式会社様より30万円のご寄付をいただきました。このご寄付は、2010年夏より全国で販売している「アウトドアスポーツ」ブランドの売上の一部をご寄付いただいたものです。今回で2回目の寄付になり、来年度もご寄付いただくことになっています。（通算寄付総額 600,000円）
寄付者からのメッセージ：バッグ&ラゲージメーカーのエース株式会社は、尾瀬の貴重な自然環境を守る環境保護活動に協力させていただきたいとの思いから、スポーツバッグブランド「アウトドアスポーツ」の商品売上の一部を尾瀬保護財団へ寄付させていただきました。今後も多くの人々が尾瀬の美しい自然を楽しみ、その自然遺産が後世まで守り続けられることを心より願っております。



2011年1月13日寄付

アサヒビール株式会社群馬支社 47都道府県において、アサヒスーパードライ缶、ビン1本あたり1円を各都道府県の売上に応じて、環境関連等の団体に寄付するもので、平成22年春のキャンペーンに続く第4弾キャンペーンにより565万円余のご寄付をいただきました。（通算寄付総額 20,377,574円）
寄付者からのメッセージ：アサヒビール(株)群馬支社では、地域との共生や地域貢献を目標に掲げ、2009年春より、アサヒスーパードライ「うまい！を明日へ！プロジェクト「尾瀬の環境保全活動」」をスタート。売上の一部を尾瀬保護財団へ寄付させていただいています。より多くの県民の皆様にご賛同をいただき、また、賛同いただくことで、県民の皆様とともに群馬県の環境保全を進めていきたいと考えています。群馬県の子供たちの未来のために、お役に立てただけなら幸いです。

協賛寄付者のご紹介

※寄付日順、敬称略

KDDI株式会社
2011年7月29日寄付

尾瀬の自然環境保護のため、84万円余のご寄付をいただきました。これは、群馬県内のauショップで新規契約または機種変更によるau携帯の売上の一部をご寄付いただいたものです。（初回寄付）

株式会社福島銀行
2011年7月21日寄付

尾瀬の自然環境保護のため、550万円をご寄付いただきました。これは、販売されているエコ定期の残高の0.01%相当額をご寄付いただいたものです。 通算寄付総額 (8,080,000円)

水上高原ホテル200
2011年5月27日寄付

水上より坤六峠を越えて尾瀬に入るツアーを実施しており、その収益の一部を尾瀬の自然環境保護の一助となるようにと30万円のご寄付をいただきました。今回で2回目となります。 通算寄付総額 (540,000円)

その他の寄付者のご紹介

※五十音順、敬称略

有間恒雄、板橋勇人、大内荘久、尾瀬山小屋組合、小花光雄、桜井とき、財団法人群馬県警察厚生会、鈴木輝夫、関本昇、永井酒造株式会社、堀木紀美子

お詫びと訂正

前号 (vol.17) 19ページの協賛寄付者のご紹介で名称に誤りがありました。お詫びし訂正いたします。
(誤) 株式会社KDDI (正) KDDI株式会社

編集後記

昨年3月の震災発生から一年が過ぎましたが、まだ多くの方が避難生活を送っておられます。改めて、災害でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、災害からの一刻も早い復興を心から願っております。
2011年シーズンの尾瀬国立公園入山者数は約28万人と、計測開始以来、初めて30万人を下回りました。2012年シーズンは、たくさんの方に尾瀬を訪れていただき、尾瀬の自然で癒されていたいただければと思っております。
よりよい機関誌を目指して、内容を充実していきたいと考えておりますので、皆さまのご意見、ご感想をお寄せください。2012年シーズンもどうぞよろしくお願い申し上げます。(井)

ヒメシャクナゲ（花期 6月-7月）

花はなぜ下向きに咲くのか。主な理由は二つある。

1. 蜜や花粉を雨から守るため。雨にあうと、蜜は流され、花粉は破裂して役立たなくなる。でも下向きなら、雨は降りこまないから。

2. チョウやハナアブの仲間を排除するため。チョウは口が細く雄しべ雌しべに触れずに蜜を吸う。アブは花間の移動頻度が低い。ともに迷惑な昆虫だが、下向きの花に止まるのが苦手なので、受粉効率のよいハナバチに多くの蜜が提供でき、受粉してもらえるのだ。



（フラワーエコロジスト 田中 肇）

『友の会』コーナー

「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援してくださる方々の集まりです。



年会費	○個人会員	1□ 2,000円
	○ユース会員（3月31日現在満22歳以下）	1□ 1,500円
	○家族会員（個人会員と同居の家族）	1□ 1,500円
	○賛助会員（団体・法人）	1□ 10,000円

☆友の会の会員期間は加入から1年です！

友の会の会員期間はご加入から1年間です。来シーズン尾瀬に行こうと考えられている方、いつ友の会に入られても、1年間フルに楽しんでいただけます。

★特典について

友の会に加入された方に次の特典をご提供させていただいております。

初回加入時：友の会会員バッチ進呈、各種資料送付

財団機関誌：年4回配布

宿泊割引：尾瀬戸倉、桧枝岐村周辺宿泊割引

（休日、祝祭日前等の除外日があります）

尾瀬周辺施設利用料割引等：対象施設等の詳細は、

尾瀬保護財団ホームページでご確認下さい。

※賛助会員の特典は財団機関誌の送付のみ



oze mobile
携帯サイト
情報配信中

緊急情報
お知らせ
ライブ映像
など

尾瀬の質問も受け付けています
ツイッター
尾瀬情報配信

